

## 第15回防災セミナー実施報告

都市型災害に備えて — 札幌市の防災力を知る —

### 1. はじめに

防災委員会は、阪神淡路大震災を契機として1995年（平成7年）5月に発足した防災研究会を母体としております。

防災研究会は、防災に関する諸問題を研究し、北海道の災害を最小限に食い止める防災体制のあり方、更には国土防災のあり方などを提言することを目的に、「技術士からの提言—地震災害に備えて—」の出版や講演会の開催等さまざまな活動を展開してきました。

平成19年度に日本技術士会北海道支部と北海道技術士センターが統合されたことに伴い、日本技術士会北海道支部の実行委員会に改組されました。

事務局の下に情報、地盤、交通、都市、水工の5つの部会があり、会員は、各部会に分かれて専門事項の研究を行うとともに、総合幹事会が各部会の連携、調整、とりまとめを行う体制となっており、現在は「都市防災」をテーマに活動を行っています。

本稿は、防災委員会の活動の一環として、2008年（平成20年）2月14日（木）に実施した第15回防災セミナーについて報告します。

### 2. プログラム

第15回防災セミナーは、「都市型災害に備えて — 札幌市の防災力を知る —」と題し、札幌市の防災に対する取り組みを学ぶために、「市民向け防災体験学習施設の見学」と「防災をテーマとした札幌市の出前講座の受講」の2部構成としました。

今回のセミナーは技術者向けの研修と位置づけ、北海道技術士会、建設コンサルタンツ協会北海道支部、札幌市設計同友会に対して、開催の案内を行いました。

### 【第15回防災セミナープログラム】

- 第1部 札幌市民防災センター視察
- 13：30 札幌市民防災センター（札幌市白石区南郷6丁目北）で地震、火災消火、火災避難などの実体験
- 第2部 講演会（Docon 新札幌ビル3階A、B、Cルーム）
- 15：45 開会挨拶  
防災委員会委員長 高宮 則夫
- 15：50 都市部会活動報告「神戸復興調査報告」  
講師 飛鳥建設 柴田 登（都市部会）
- 16：10 札幌市の防災計画について  
講師 札幌市危機管理室 堀 義文（都市部会）
- 17：30 閉会

### 3. 第1部 札幌市民防災センター視察

札幌市民防災センターのパンフレットには「札幌市民防災センターは、いろいろな災害の疑似体験をしながら、防火・防災に関する知識や、災害が発生したときの行動を学んでいただくための施設です。」と説明されています。

「消防の仕事紹介ゾーン」、「災害と体験コーナーの紹介ゾーン」、「体験ゾーン」で構成されており、はしご車や消防機材の展示、3Dシアター、兵庫県南部地震など揺れを体験できる施設など様々な形で防火・防災について体験し、学ぶことが出来ます。札幌市民防災センターの視察には28名が参加しました。2班に分かれてスタッフの引率のもと、約1時間30分で各施設を見学・体験しました。



写真－1 地震体験コーナー

#### 4. 第2部 講演会

札幌市民防災センター視察終了後、Docon 新札幌ビルへ移動し、講演会を開催しました。2部から参加される方もいたため、参加者は49名となりました。

高宮防災委員会委員長の挨拶の後、2つの講演を行いました。今回は外部の講師を呼ばず、防災委員会都市部会のメンバーが講師を務めました。

##### (1) 都市部会活動報告「神戸復興調査報告」

神戸復興調査は、日本技術士会北海道支部防災委員会の平成19年度における活動の一環として、都市部会が企画して参加者を募りました。

総勢10名の参加による神戸復興視察調査団が2007年(平成19年)11月9日～10日の2日間、現地視察や意見交換等の調査を実施しました。その概要について、調査団の一員で都市部会のメンバーである飛島建設の柴田 登氏に報告していただきました。

##### 【神戸復興視察調査スケジュール】

11月9日(金)

- ① 新長田駅北地区震災復興土地区画整理事業及び新長田駅南地区震災復興第二種市街地再開発事業の現地視察
- ② 「神戸防災技術者の会」(略称 K-TEC)との意見交換会

11月10日(土)

- ③ 阪神淡路大震災記念「人と防災未来センター」の施設見学

##### ④ 第13回西日本技術士研究・業績発表年次大会への参加

特に、11月9日の復興視察調査では、新長田駅周辺現地視察やまちづくりセンターでの意見交換において、「神戸防災技術者の会」(略称 K-TEC)の皆様から多大なるご支援とご協力をいただき、さらに懇親会で交流を深めることができたことが報告されました。

なお、「神戸防災技術者の会」(略称 K-TEC)とは、2004年(平成16年)に笹山前神戸市長の呼びかけで発足した組織で、「阪神・淡路大震災の経験の伝承」、「危機管理、特に自然災害の研究」、「災害時の支援・救援」を目的として、技術・事務・消防など職種を問わず、神戸市の職員及び退職者で構成されており、定例の自己研修会、災害支援活動、シンポジウム開催、図書刊行など幅広い活動を展開しています。



写真－2 柴田氏による「神戸復興調査報告」

11月10日は全員で「人と防災未来センター」の施設を見学し、その後、第13回西日本技術士研究・業績発表年次大会の第2分科会「南海・東南海地震に備える」に参加したことが報告されました。

最後に「神戸の教訓：災害を一人の体験、多数の傍観で終わらせてはならない 平成7年1月17日早朝に起きた大地震は“たまたま神戸だった”のではなく“たまたま私たちの住む札幌でなかった”だけなのだから」の言葉で報告を締めくくりました。

##### (2) 札幌市の防災計画について

札幌市では、市民への情報提供と対話の一環とし

て、市職員が市民の要望に応じて地域に出向き、市の施策や事業について説明を行う「出前講座」を実施しています。

防災に関するテーマとしては、「震災に備えて～さっぽろの地震対策」、「大雨・台風に備えて～さっぽろの水害対策」、「万が一に備えて～さっぽろの国民保護計画」の3つが用意されており、特に「震災に備えて～さっぽろの地震対策」は、実施される回数が多く市民の関心が高い講座です。

通常、出前講座はテーマごとに別々に実施されるのですが、今回のセミナーは、札幌市の防災計画全体について学ぶ事を目的としていることから、札幌市の防災都市部会メンバーで札幌市危機管理室の堀義文氏に依頼して、3つの講演内容をひとつにまとめていただきました。

また、受講者は防災に対する予備知識を持つ技術者であることから、初歩的な説明は簡略化するとともに防災対策の体系や考え方を詳しく説明する等のアレンジを加えていただきました。



写真－3 堀氏による「札幌市の防災計画」

札幌市の危機管理対応計画は、地域防災計画として、「地震災害対策」、「風水害対策」、「雪害対策」、「事故災害対策」があり、さらに外部からの武力攻撃や大規模テロ等を対象とした「国民保護計画」も平成19年に策定されています。

講演では、阪神・淡路大震災の教訓、札幌市の地震対策、札幌市の防災対策の考え方、国民保護計画等について、堀氏の職務上の体験談なども織り交ぜて説明していただきました。

## 5. おわりに

第15回防災セミナーに多数の皆様のご参加をいただき、ありがとうございました。

今回のセミナーは、都市部会が主幹となって企画し、水工部会が運営を支援する体制で実施いたしました。

私は19年度から都市部会の幹事を務めておりますが、主体的にセミナーの運営に携わったのは今回が始めてだったことから、不慣れなため皆様にご迷惑をおかけしたことも多々あったと思います。

また、今回は外部から講師を呼ばず、防災委員会のメンバーが講演を行う形としましたので、講師を務めていただいた都市部会の柴田さんと堀さんには資料の作成や打合せも含め、ご尽力をいただき感謝しております。

最後に、業務多忙の中、セミナーの企画・運営にご協力いただいた皆様に改めて御礼申し上げて、第15回防災セミナーの報告を終わります。

(文責：防災委員会 都市部会幹事 伊藤 仁)